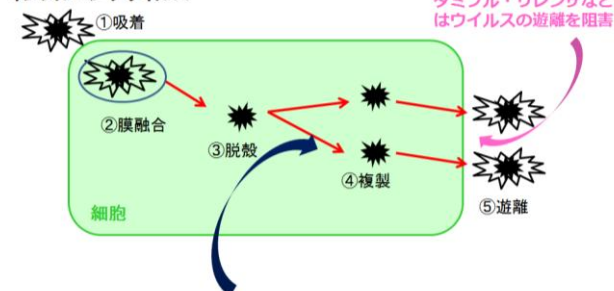


## ICT だより

インフルエンザウイルス



アビガン錠（ファビピラビル）は  
インフルエンザウイルスのRNAポリメラーゼを特異的に阻害  
ウイルスの複製を阻止する！！

## 新たな抗インフルエンザ薬承認

厚生労働省は3月24日に、タミフル<sup>®</sup>やイナビル<sup>®</sup>などノイラミニダーゼ阻害薬に耐性を示すインフルエンザ（新型または再興型インフルエンザ感染症）が流行した場合の対策として、富山化学工業が開発した新しい抗インフルエンザ薬アビガン<sup>®</sup>錠（一般名：ファビピラビル）の製造、販売を承認しました。早ければ6ヶ月後、遅くとも9ヶ月後には入手可能となりますが、副反応が強いため、直ちに医療施設向けに販売するものではなく、厚労省の要請を受けないと供給されません。

ファビピラビルの作用機序は、インフルエンザウイルスが感染した細胞内で遺伝子を複製・増殖し、遊離する際に、その遊離を阻害して感染の拡大を防ぐノイラミニダーゼ阻害薬（タミフル<sup>®</sup>など）とは異なり、ウイルスの細胞内での遺伝子複製を阻害することで増殖を防ぐという新しいメカニズムを有する薬剤（RNAポリメラーゼ阻害薬）です。このような特徴から、ノイラミニダーゼ阻害薬が無効または効果不十分である場合に備え、ファビピラビルを使用可能な状況にしておくことに意義があるとされています。

ただ、ファビピラビルは動物などを用いた非臨床試験で催奇形性が確認されており、ヒトにおいても同様に起こると考えられるため、妊娠中の女性が服用すれば胎児に重篤な副作用が出る危険性があります。厚労省は流通制限など安全対策に加え、さらなる有効性を確認するための治験を実施することを条件にアビガン<sup>®</sup>錠を承認しました。

アビガン<sup>®</sup>錠の製品概要

効能・効果	新型又は再興型インフルエンザウイルス感染症（ただし、他の抗インフルエンザウイルス薬が無効又は効果不十分のものに限る）。
用法・用量	通常、成人にはファビピラビルとして1日目は1回1,600mgを1日2回、2日目から5日目は1回600mgを1日2回経口投与する。総投与期間は5日間とすること。

## 「置くだけで除菌」は根拠無し

消費者庁は3月27日、空気中に放出される二酸化塩素の効果で生活空間の除菌や消臭ができるとする空間除菌グッズは効果を裏付ける根拠がないとして、景品表示法に基づき、販売元の製薬会社など17社に表示変更などを求める措置命令を出しました。「首からぶら下げるだけ」「部屋に置くだけ」で除菌できると宣伝するのは同法違反にあたる判断したもようです。

二酸化塩素自体には殺菌効果が認められますが、生活空間を除菌する効果があるかは、発売当初より学会等で疑問視されていました。消費者庁は17社に表示を裏付ける合理的根拠の提出を求めましたが、各社から提出されたのは密閉空間などでの試験結果で、換気をしたり、人が出入りしたりする部屋などでも効果があるとは認められませんでした。

対象商品は大幸薬品「クレベリンゲル」、中京医薬品「クイックシールドエアーマスク」など25商品で、これらはすべて医薬品ではありません。医薬品以外の製品を消毒等の目的で使用するのは、注意が必要と考えられます。

## もくじ

新たな抗インフルエンザ薬承認

「置くだけで除菌」は根拠無し

ゴッグルのリユースは細菌を伝播

スーパーバグの出現

研修会などのお知らせ



## 研修会などのお知らせ

### 石巻地区感染対策講演会

5月9日(金)

18:30~20:30

石巻赤十字病院会議室

0225-21-7200

#### 特別講演 I

#### チーム医療と感染対策

山形大学医学部付属病院

主任教授・薬剤部長

白石 正

#### 特別講演 II

#### 感染対策の重要ポイント

#### 抗菌薬適正使用も含めて

浜松医療センター 副院長

矢野 邦夫

## ゴーグルのリユースは細菌を伝播

米国のカリフォルニア州の病院において、手術室で使用されているゴーグルの細菌汚染状況が調査されました。

方法は 30 日間にわたって 4 手術室で行われる 71 の手術例から、職員が使用したゴーグル(シングルユース:276 個、リユース:39 個、計 315 個)を回収し、培養を行っています。培養検体採取後に、リユースのゴーグルは洗浄し、ワイプ製品を使って消毒を行い、乾燥したのちに(再利用しないまま)再度の培養を実施しています。

結果、シングルユースの 38%、リユースの 95%から細菌が検出され、消毒した後に培養したリユースゴーグルの 74%は、院内感染を引き起こすことが知られている病原体に汚染されたままとなっていました。検出された細菌は、ブドウ球菌類 44%、グラム陽性球菌 36%、バシラス属 11%、ジフテリア菌 6%、ミクロコッカス 4%で、ヒトの表皮や環境から検出される細菌で占められていたようです。

リユースのゴーグルは個人専用にならないと、使用者間での細菌伝播の媒介物となる可能性が高いことが示されました。なおかつ、ゴーグルはその製品上の特性から、消毒用ワイプ(ショードックなど)で消毒したとしても、接合部分や細かな溝の部分は、うまく消毒されないことも、この論文は示唆しています。

当院では、職員への感染防止のため、個人用ゴーグルの使用を推進し、1日の使用が終わったゴーグルの消毒用ワイプによる消毒も勧奨しています。この手法によって、ゴーグルは使用直後より清潔な状態になりますが、この消毒は不完全であることを十分に把握しなければいけません。また、自分が使用しているゴーグルを触った手で、手指衛生を実施することなく、患者に接触するのは問題のある行為であるとの認識も持つ必要があります。つまりは、手指衛生 5 つのタイミングにある、「患者に接する直前の手指衛生」を確実に守ることが、院内感染のリスクを低減するのです。

American Journal of Infection Control. 42: 446-447, April 2014

## スーパーバグの出現

薬剤耐性菌は病院環境や入院患者から検出されるのが一般的ですが、米国のテキサス州の病院に入院したブラジル人から、市中で感染したと推測される MRSA が検出され、なんとこの MRSA がバンコマイシンに耐性だったことが判明し、米国ではかなり反響を呼んでいます。

市中感染型の MRSA は Community-Acquired MRSA の頭文字をとって CA-MRSA と呼ばれ、易感染者ではない小児やスポーツ選手などの健常人の主に皮膚・軟部組織感染症を起こすとされ、まれに壊死性肺炎を起こし致命的になるという報告もあり、従来の MRSA と比べて病原性が高いのが特徴です。主に米国を中心に 1990 年ごろより問題となっていて、日本では、2003 年に大学の相撲部におけるアウトブレイクが話題となりました。

従来、CA-MRSA は耐性遺伝子を比較的保有しておらず、β-ラクタム薬以外の薬剤感受性は保たれている場合が多いとされてきました。しかし、今回の報告にある CA-MRSA はバンコマイシンに高度耐性を示しており(遺伝子検査においてバンコマイシン耐性遺伝子が検出された)、今後、市中への広まりが懸念されています。

通常、MRSA への治療薬は米国でもバンコマイシンが第一選択となっているため、バンコマイシン耐性の MRSA が市中に拡大した場合、CA-MRSA が疑われた患者に、エンピックにバンコマイシンを投与できなくなる可能性があります。比較的安価なバンコマイシンやバンコマイシンと交差耐性があるテイコプラニンが投与できなくなるとすると、リネゾリドやダブトマイシンといった高価な抗菌薬を使用せざるを得なくなり、医療費の増大やさらなる耐性菌の問題が浮上することになります。今後の動向に注意が必要と思われます。

New England Journal of Medicine. 370:1524-1531, April 2014

編集:大石貴幸・佐藤明子 監修:岩城利充 感染管理室(内線 155)